

OPINION

私はこう考える

古川定昭 (社)全国二輪車安全普及協会専務理事

昭和37年、東京大学法学部卒業、同年警察庁採用。山梨県警本部長、福岡県警本部長、中部管区警察局長などを歴任。平成5年、関西空港(株)常務取締役・専務取締役、平成10年、関西空港用地造成(株)取締役。平成11年、(社)全日本指定自動車教習所協会連合会専務理事。平成18年6月に(社)全国二輪車安全普及協会専務理事に就任。

ライダーがきちんと行動するようになり、二輪車を見る社会の目が変わる



充していく計画だ。特にグッドライダー・ミーティングを強化し、平成22年までに全都道府県で年2回以上実施すると決めた。若い初心者、女性の参加者は増えているが、これから重点を置きたい高齢者の呼び込みも知恵を絞る。

二輪車を止めさせていないのに、マナーが悪いという声アンケートに出ていることを古川専務理事は憂える。「駐車場を利用するライダーのマナーはむしろ良好だと思えます。路上にクルマを放置するドライバーよりずっとマナーがいいのではないのでしょうか。」

「安全活動も防犯活動も核となるのは二輪車販売店」と古川専務理事は言う。「二輪車を快適に、利便性のあるものとして社会に定着させていくには、車

駐車場問題をきっかけにライダーのマナー向上を図る

二輪車を取り巻く環境では、今年6月1日施行の駐車違反に関する改正道路交

通法の影響が大きい。(社)日本自動車工業会が昨年、全国13の政令指定都市の民間駐車場に行っ

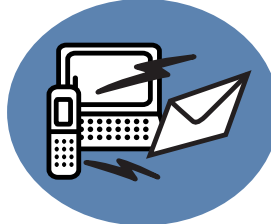
(社)全国二輪車安全普及協会(以下、二普協)は5月に行われた平成18年度通常総会で、「グッドライダー・防犯登録(以下、G防)制度および盗難等情報回答業務(以下、二輪車盗難照会システム)の推進」「各種安全運転指導活動の強化」「二輪車の安全で快適な利用のための環境作り」の3項目を今年度の重点事業に掲げた。

G防とあわせて、二輪車販売店には店頭での個別安全指導の推進、ライダーにはグッドライダー・ミーティング実技講習会への参加を呼び掛けているが、これも拡



ライダーに駐車マナーの向上を呼びかける「第31回二輪車安全運転推進運動」のポスター

※グッドライダー・防犯登録＝二輪車の盗難防止と、万が一の盗難時の早期発見を実現するための防犯システム。加入すると、二輪車のデータが警察庁のコンピューターに登録され、不審車両が発見された場合は、所有者への確認ができるため、盗難車の早期発見を可能にする



VOICE

読者の声

ご愛読者の皆様へ: SJに対するご意見・ご感想をお寄せください!

SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。SJへのご意見・ご感想は下記のメールアドレスへ。

sj-mail@ast-creative.co.jp

※弊紙に対する個別のご質問には回答できかねる場合がございます。あらかじめご了承ください。※調査協力等のためにご連絡をさせていただく場合があります。

★8月5、6日に「第39回二輪車安全運転全国大会」が開催されました(4面NEWS REVIEW参照)。

今月号のVOICEは、同大会の女性クラスおよび高校生等クラスの優勝者の声をうかがいました。

大きな目標を達成するためにはみんなの力を合わせる事が大切



女性クラス優勝者 中田智子(富山県代表)

私は5年前までバイクにはまったく興味がありませんでした。ある時、知人がバイクの魅力について話してくれ、自分が考えているほど危険な乗り物ではないと思えました。そして、私はまず原付バイクに挑戦することにしました。最初は恐る恐るゆっくり直進することで精一杯でしたが、楽しさを感じることができ、だんだんとバイクに対する興味がわいてきました。

それから3年後の2004年より、私は二輪車安全運転全国大会に富山県女性クラス代表として、3年連続で出場することができました。私自身がこれまで練習を続けられたこと、今回、女性クラスの個人優勝ができたことは、自分一人の力だけではなく、一緒に練

メンタル面を強化し、自信を持って競技に望んだことが好結果に



高校生等クラス優勝者 吉田直人(神奈川県代表)

昨年、高校3年生の時に二輪車安全運転全国大会に初出場しました。まず、他の選手の運転技術の高さに圧倒されました。そして、何もかもが初めての体験だったため、競技中は頭の中が真っ白になって、普段はやらないようなミスをしてしまい、あと一歩のところ

で8位以内入賞を逃してしまっただけです。とても悔しい思いをしました。翌年、専修学校に進学した後もまた挑戦し、雪辱しようと思いました。そして今年、昨年は緊張して自分の実力が発揮できなかったもので、メンタル面の強化を意識しました。一緒に練習している他のクラスに出場する選手や指導員のアドバイスを参考にしながら、苦手だった砂利道走行をはじめ、

習してきたチームのメンバーや指導員をはじめ、多くの方々のおかげだと感謝しております。また、富山県代表のチームワークによって、2年連続団体優勝を成し遂げることができました。今振り返ると、5年前の私には想像もつかないような変化が表れています。バイクの安全運転技術を身につけたこと、練習をやり続けた自分やチームのメンバーの方々によって、知らず知らずのうちに自分の思いや気持ち、価値観が大きく変わりました。

今後は、これまでの経験を活かしながら、プライベートで運転している大型二輪の安全運転技術を向上させたいと思います。

すべての課題を何十回と納得がいくまで練習し、自信をつけていったのです。そして、全国大会では「自分が一番うまいんだ」と胸を張って競技に臨み、その結果、今回は1つのミスもなく優勝できました。

これに満足せず、さらに安全運転を極めていきたいと考えています。来年は一般クラスで全国大会出場、優勝をめざしていくつもりです。私たちがライダーが安全運転をすることで、少しでも交通事故を減らしていくことに貢献したいと思っています。

※高校生等クラスの出場資格は、高等学校、高等専門学校、専修学校および各種学校の在学者または卒業生ならびにその他働いている若者であって、大会初日において20歳未満の者